

巻頭言



未来に向けた歯科医療に対応できる 日本補綴歯科学会を目指して

公益社団法人日本補綴歯科学会理事長

日本大学歯学部教授 松村英雄

平成 27 年の定時総会で選任されました理事の中から、今期理事長を拝命いたしました。約 2 年後の定時総会までの任期となりますが、皆様からのご指導とご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。本稿ではご挨拶旁々、学会の現状と運営について述べさせていただきます。

I. 公益法人制度改革に対応した学会運営と 社会貢献

本会は、公益法人制度改革関連法に基づき、平成 25 年 4 月 1 日に公益社団法人日本補綴歯科学会としての活動を開始いたしました。おかげさまで移行後の会員数は増加の傾向にあります。また、会費納入率の高さは財政基盤の安定化につながっております。本会は、少子超高齢社会に対応できる研究成果の発信、良質の補綴歯科医療に関する情報提供を強化することを目標として活動を展開してまいります。

II. 支部活動

本会は 9 つの支部を設置して活動を行っておりますが、公益化以降の各支部は法人会計で運営されております。今期は、「9 支部はしっかり噛み合って活動しているが、全支部は基本的に離れている」という事態にならぬよう、すべての支部から理事会構成員としてのご参画をいただきました。支部学術大会独自の表彰制度を設けることも、引き続き支援いたします。

III. 学術大会、研究推進、国際交流および社会連携 学術大会は会員が同じ場所に集う機会であり、情報

交換の場でもあります。学会は、すべての会員が歯科補綴学に関わる継続的研鑽を積むことができることを目標として、大会の企画運営を行います。臨床研究、補綴本来の研究企画を推進し、国際交流と社会連携を強化いたします。

IV. 編集出版と広報活動

Journal of Prosthodontic Research (JPR) は歴代編集委員会のご尽力により、Journal Citation Reports (JCR: Thomson Reuter) 掲載の運びとなりました。ほどなく JPR の Impact Factor 他各種データが公表されます。これは補綴学雑誌としては世界で 5 番目、日本歯科医学会専門分科会 21 学会が発行する雑誌としても 5 番目以内となります。機関誌の質の維持は本会にとって継続性が求められる課題です。全世界から引き続き質の高い論文を募りつつ、内容のさらなる充実を目指します。

日本補綴歯科学会誌は、迅速な発行、カラーページの増加などを目標として編集いたします。電子媒体と冊子体の共存と棲み分けは、HP、ニュースレター等による広報活動とも関連づけて充実させているところです。

V. 専門医制度、指導医育成および教育問題

社団法人日本専門医制評価・認定機構は、医科専門医制度整備指針を発行し、基本領域学会における基本領域専門医養成を掲げております。歯科においてもかかる枠組みが構築される可能性があり、教育問題とも関連づけて検討し、専門医資格認定、指導医育成、研修体制等を充実、強化してまいります。

学会が中核となるべき事業として「用語」、「教科書」、「教材」などの検討が挙げられます。これらにつきましては、会員各位のご協力のもと、学会における定常的業務として執り行います。

VI. 未来を見据えた補綴歯科保険診療の探索

医療技術の保険導入は先進医療経由と医療技術評価提案書提出の2ルートに大別されます。補綴歯科医療費の歯科医療費に対する比率は高いレベルで推移しております。本会は今までにも増して知恵を絞り、ガイドラインの策定、医療技術評価提案書の作成、先進医療に値する技術の検討などを推進いたします。

VII. 事務局の機能強化と会員に対するサービス向上
事務室移転完了に伴い、事務局の体制強化を図り、会員にとってより利用しやすい学会となるよう努力いたします。

学会からの情報発信は、機関誌の他にHP、メーリングリスト、各種会議等を通じて行っております。学会運営につきましては、ご忌憚のないご意見をいただきたく存じます。会員各位からのご支援とご協力を切にお願い申し上げます。